

第56回全日本登山大会 北海道大会 開催要項

【大会目的】

全国の岳人が新緑の大地北海道の自然にふれあい登山技術の向上と親睦を図る。また、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する「山の日」を継続的に発展させ自然を守り、安全登山の啓発を続ける大会にします。

1. 開催期日 平成29年7月6日(木)～8日(土) 2泊3日
2. 主 催 (公社)日本山岳協会
3. 主 管 北海道山岳連盟
4. 後援(予定) 文部科学省・(公財)日本体育協会・北海道・北海道教育委員会
(公財)北海道体育協会・札幌市・倶知安町・ニセコ町・京極町・真狩村・喜茂別町・留寿都村・蘭越町・共和町
5. 開催地域 札幌市・倶知安町・ニセコ町・京極町・真狩村・喜茂別町・留寿都村・蘭越町・共和町
6. 協賛(予定) (株)りんゆう観光・(株)秀岳荘・(株)大塚製薬・ICI 石井スポーツ
7. 受付・開会式・閉会式(交流会)・宿泊
『定山溪ビューホテル』(札幌市南区定山溪温泉東2丁目)
電話 011-598-3223
8. 募集人員 270名
9. 日 程
第1日目 7月6日(木)
① 受付 13:00～15:00
② 開会式及び記念講演 15:00～17:00
第2日目 7月7日(金)
① 登山 【3頁参照】
② 閉会式及び交流会 18:30～20:30
第3日目 7月8日(土)
① 朝食後、自由解散
② オプショナルツアー出発
10. 参加資格
① 都道府県山岳連盟(協会)より推薦を受けた者
② (公社)日本山岳協会の役員、参与および賛助会員
③ 地域の登山普及を図るため、主催者が特に認めた者

● 参加者は「山岳共済会山岳遭難・搜索保険」加入をお勧めします。

※問合せ先 電話：03-5958-3396 / Eメール：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

URL：http://sangakukyousai.com

11. 登山コースと概要

コース名	コース内容	グレード 概略所要時間	出発時刻	定員
A アンヌプリコース	五色温泉 → アンヌプリ → 五色温泉	★ 3 時間	8 時	30名
B イワオヌプリ・ ニトヌプリコース	五色温泉 → イワオヌプリ → ニトヌプリ → 峠	★★ 4 時間	8 時	30名
C ニセコ沼巡りコース	大谷地駐車場 → 大沼 → 大谷地駐車場 → 神仙沼 → 神仙沼駐車場	★ 2 時間30分	8 時	30名
D チセヌプリコース	峠 → チセヌプリ → 湯元温泉	★★ 3 時間30分	8 時	30名
E 羊蹄山・比羅夫コース	比羅夫口 → 羊蹄山 → 京極口	★★★★ 10時間30分	4時30分	40名
F 羊蹄山・真狩コース	真狩口 → 羊蹄山 → 真狩口	★★★★ 10時間30分	4時30分	40名
G 羊蹄山・京極コース	京極口 → 羊蹄山 → 京極口	★★★★ 10時間	4時30分	40名
H 尻別岳コース	留寿都口 → 尻別岳 → 留寿都口	★★ 4 時間	8 時	30名

12. 登山中の留意事項

- ① 参加者は各自で大会中の飲み物、行動食、非常食を準備してください。
- ② 大会2日目（7月7日）の昼食は弁当（お茶 500ml ペットボトル付き）を配布します。
※ E, F, G の羊蹄山コースの朝食は弁当です（バスで配布）
- ③ コース中トイレは有りませんので携帯トイレを持参ください。
※ 登下山口のトイレの有無はコース案内をご覧ください。
- ④ ゴミの持ち帰り、自然保護につとめて下さい。
- ⑤ 北海道の山は虫が多いので、防虫スプレーなどご用意してください。また、半ズボン是不向きです。
- ⑥ 山岳会毎に救急医療用具（例；固定用テープ；50mm 白など）をご用意ください。
- ⑦ 羊蹄山 E F G コースは、登頂最大所要時間は6時間と考えていますが、これより大幅に遅れる山岳会パーティー（個人）には登頂断念の処置をとる場合がありますのでご了承ください。
- ⑧ B, C, D, E コースは登山口と下山口は異なります。途中下山（登山口に戻る）は基本的にはできませんのでご注意ください。

13. 参加申込み

(1) 大会参加費 33,000 円 (宿泊費、食費、大会中の輸送費、記念品、保険料を含む)

(2) 申込み方法

- ① 参加者は巻末の「**参加申込書**」に必要事項を記入し、記載責任者の押印のうえ、
「**参加費振り込みの控え**」又はそのコピーを添えて、下記宛てに送付または Fax して下さい。
- ② 記載責任者は「参加申込書」のコピーを所属山岳連盟（協会）に提出して下さい。

送付先	〒060-0909 札幌市東区北 9 条東 2 丁目 (株)りんゆう観光「全日本登山大会係」(担当) 白石真介・橋本竜平 Fax 011-731-1456 Tel 011-711-7106
-----	--

(3) 参加費の納入先

北洋銀行 光星支店 (ホクヨウギンコウ コウセイシテン) 口座番号：普通 0559328 口座名義：りんゆう観光札幌営業所 (リンユウカンコウ サッポロエイギョウショ)
--

《振り込みの際の注意》

- ・振り込み手数料は参加者負担とさせていただきますのでご了承願います。
- ・金融機関により振り込み限度額の設定があるため、事前に確認されることをおすすめいたします。
- ・**現金書留での支払いはできません。**

(4) 申込期間 平成 29 年 4 月 10 日 (月) ～ 平成 29 年 5 月 22 日 (月)

※定員になり次第締め切ります。(定員 270 名)

(5) コース希望については、人員によって調整することもあります。必ず第 3 希望まで記入して下さい
申込み締め切り後、**6月10日(土)** までに決定内容の通知を差し上げます

(6) 参加費の返却について

特別な事情により大会への参加が不可能になった場合、次の取り扱いをします。

なお、返却精算は大会終了後になります。

- ① 参加費の納入後、平成29年6月20日(火)までに参加の取消通知があった場合、**参加費の 90%** 返却します。
- ② 前記①以外の取消については、返却しません。

14. 事務連絡事項

(1) 大会ならびに山域に関する問合せは大会事務局へご連絡ください。

北海道山岳連盟事務局 〒004-0875 札幌市清田区平岡 5 条 3 丁目 5 - 3 益田敏彦 方 Tel&Fax : 011-883-3754 E-mail : toshi50@h8.dion.ne.jp

(2) 飛行機、J R、大会後のオプションツアーの問合せ、申込みは下記へご連絡ください。

株式会社りんゆう観光 TEL 011-711-7106 (担当) 橋本竜平

(3) 岳連 (協会) 旗については、**6 月 29 日 (木)** までに大会事務局へ送付して下さい。

(4) 「参加申込書」、「参加費等振込み明細書」の様式データは、北海道山岳連盟のホームページからダウンロードできます。

《 会場案内 》

■定山溪ビューホテルまでの交通

- ◎ JRで札幌駅に行き、駅前バスターミナルから「じょうてつバス」をご利用ください。
(× 新千歳空港からの空港直通バス(北都交通)は開会式に間に合いません)

所要時間と運賃

JR快速(新千歳空港→札幌)

40分 / 1,070円

じょうてつバス

【定山溪線 or 豊平峡温泉】

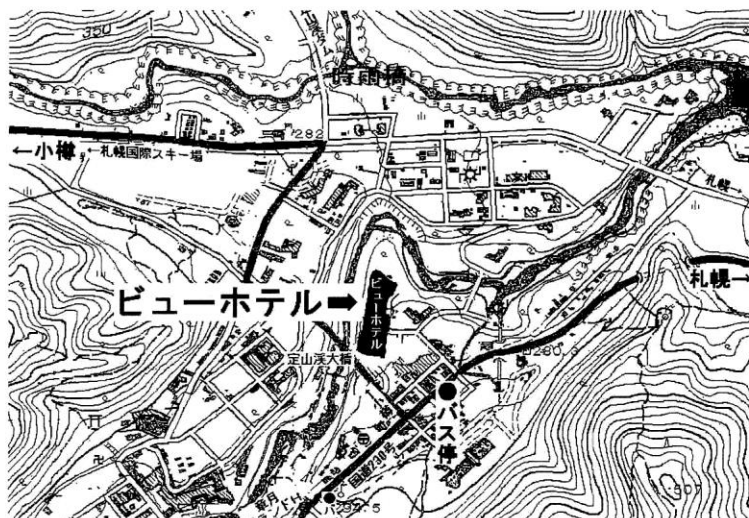
70分 / 770円

・乗り場と発時刻

札幌駅バスターミナル

中レーン⑫番より

9:00 10:30 12:00 13:00



■大会の宿泊地 定山溪温泉

本大会の宿泊地定山溪温泉は、1866(慶応2)年、小樽張碓の曹洞僧「美泉定山」(備前の出)がアイヌから温泉のあることを聞き、小さな小屋を建てて温泉宿としたのが始まりである。1871(明治4)年、札幌の開拓使判官岩村通俊が定山の願いで訪れ、休泊所と浴槽を作らせ米を給与した。同年、本願寺道路(現国道230号)の検分に訪れた開拓使長官東久世通禧がこの地を「定山溪」と命名した。1914(大正3)年、豊羽鉱山の開発が始まると温泉は活況を呈し、18年に定山溪鉄道が開通すると札幌の奥座敷として繁栄していった。戦中・戦後進駐軍時代に一時盛況を欠いた時期はあったが、1965(昭和40)年に漫画家おおば比呂司氏の助言で「かつぱ」をモチーフにした温泉街づくりに取り組み、かつぱ伝説を創作して今日に至っている。泉質は「無色透明ナトリウム塩化物泉」で、神経痛、リウマチ、胃腸病、婦人病に効能がある。

■登山口までのバス輸送経路

※どの登山口もホテルからバスで1時間以上かかりますので、トイレは「中山峠」等で済ませてください。

「中山峠と国道230号(本願寺道路)」

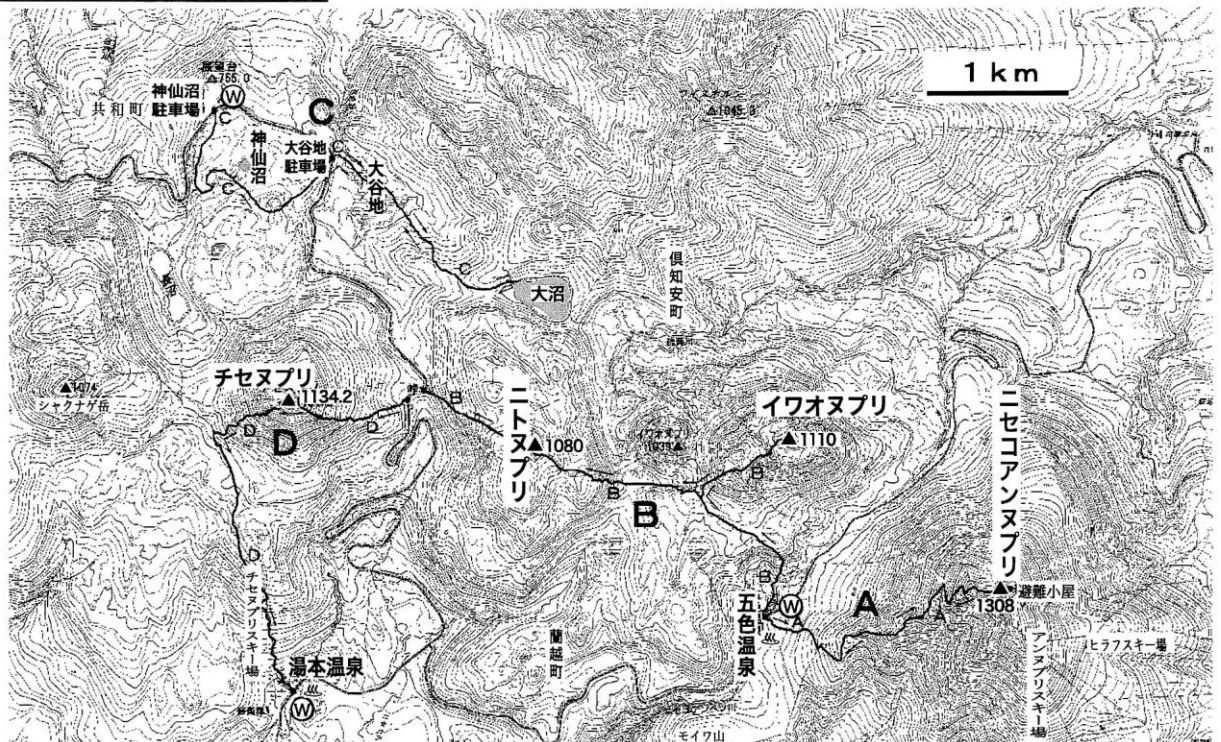
北海道の本府を札幌に置いた開拓使は、札幌への陸路開削を新政府に忠誠を誓い教線の拡大を図る東本願寺へ出願させた。東本願寺は従来からアイヌが使っていた噴火湾岸の尾去別(現伊達市)から、中山峠を越えて平岸村(札幌市)までの歩道103kmの拡張開削を1871(明治4)年に完成させた。工事は東本願寺新門主・大谷光蛸(現如上人)以下12名の門徒が渡道し、維新戦争に敗れた仙台支藩巨理藩有珠村移住者、アイヌなど延五万五千人を動員、わずか1年で完成させた。日本最初の長距離馬車道であり、1873年に室蘭～苫小牧～札幌の札幌本道の開通までの主要道であった。中山峠には現如上人の巨大な立像が建っている。ここ中山峠はシンメトリックな羊蹄山を眺める絶景ポイントである。実は羊蹄山は北東～南西に少し歪んでいるので中山峠とニセコ町を結んだ線でなければ左右対称の姿は見られない。そしてまた、夕景の羊蹄山も絶品である。



【コース案内】

◎ ニセコ連峰

㊦はトイレの場所



◆Aコース ニセコアンヌプリ (1308.0m) 往復

『コース所要時間』 ㊦はトイレの場所

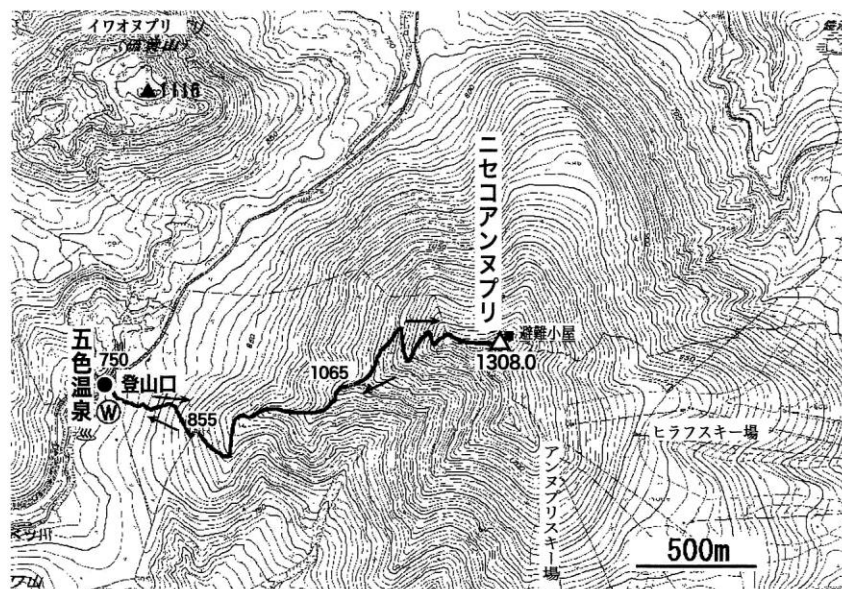
(往路バス) 定山溪 = 中山峠㊦ = 喜茂別町 = ニセコ町 = 五色温泉㊦

(登山) 五色温泉登山口 → 1:45 → ニセコアンヌプリ頂上 → 1:15 → 五色温泉登山口

(帰路バス) 五色温泉㊦ = 湯本温泉 = ニセコ町 = 京極吹出し公園 = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

小石は多いが幅広く整備された歩きやすい登山道で、急斜面をジグザグに登る。500m毎に標識があり、登るにつれて向かいのイワオヌプリから次第にニセコ連峰が全貌を現してくる。1,100mを過ぎると這い松が現れ、やがてエゾカンゾウに迎えられて頂上手前の肩に出ると羊蹄山が見えはじめる。頂上では目の前に展開する羊蹄山の雄大な姿に圧倒される。眼下には東洋のサンモリッツと称されるニセコのスキー場群が展開し、西から北にかけて札幌の南を限る山々から積丹半島へ続く山並みが連なり、羊蹄山の右側には遠く洞爺湖と有珠山、昭和新山が見える。



◆Bコース イワオヌプリ(1116m)・ニトヌプリ(1080m) 縦走

『コース所要時間』 Wはトイレの場所

(往路バス移動) 定山溪 = 中山峠W = 喜茂別町 = ニセコ町 = 五色温泉W

(登山) 五色温泉登山口 → 0:50 → 大沼・イワオ分岐 → 0:40 → イワオヌプリ → 0:30 → 分岐 → 1:00 → ニトヌプリ → 1:00 → 峠 (チセ・ニト鞍部)

※下山後のトイレは「湯本温泉」で済ませてください。

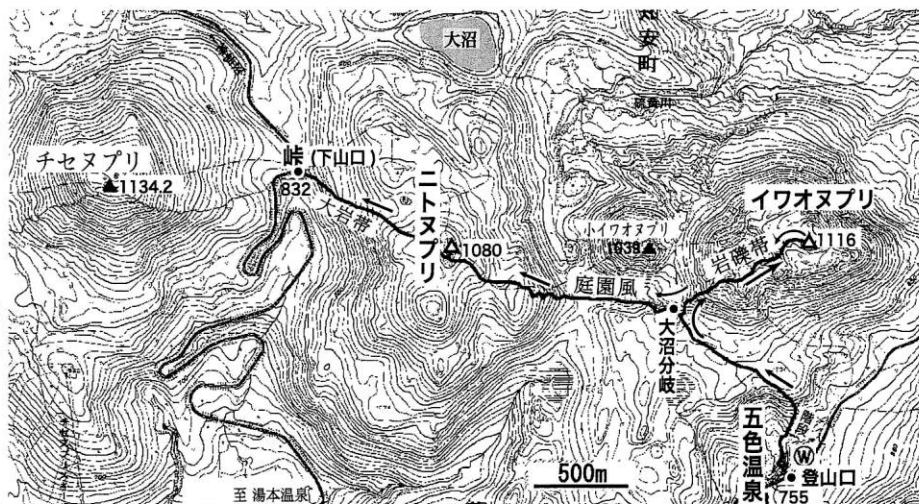
(帰路バス移動) 峠 = 湯本温泉W = ニセコ町 = 京極吹出し公園 = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

五色温泉休憩所から小さな橋を渡ってエゾイソツツジの群落を眺めながら、かつての水蒸気爆発跡と思われる白い岩肌の露出した斜面を木道と石畳の道を辿る。小さな社を過ぎて丸太で土留めされた急な階段を登り灌木帯に入ると、歩きにくい岩の道はやがて緩やかになり、道端にマイヅルソウやゴゼンタチバナなどの白い花が咲き乱れ、ウコンウツギの清楚な花に慰められる。

イワオヌプリへの分岐で右に折れ

ると白い露岩のイワオヌプリの斜面を登るようになる。ニセコ火山群でもっとも新しい火山だ。ザレ状の踏み跡を辿って急斜面を過ぎると雪溪に埋められた火口が見える。エゾイソツツジの花に導かれて緩やかな斜面を登ると頂上に到着。目の前にニセコ最高峰のアンヌプリが迫り360度の展望が楽しめる。分岐に戻ってニトヌプリに向かう。すぐ大沼方面への道と分かれてロープのある急なザレ道を下り、小イワオヌプリの裾の小岩塔群を右に見ながら、マルバシモツケなど様々な花の咲く別天地のような小庭園の平坦な道を進む。やがてニトヌプリへの急斜面を、ジグザグに笹の中に付けられた道を登っていく。ニトヌプリは南峰と北峰からなる双耳峰。少し高く山頂標識のある北峰に登る。振り返れば白いイワオヌプリ、そして行く手には屋根型をしたチセヌプリが聳えている。エゾゼンテイカ、ニガナなど黄色い花が目につく。下りはニセコパノラマラインの峠に向かって大小の岩がゴロゴロした道を下る。気疲れのする厳しい下りだ。スリッパや捻挫に気をつけたい。



◆Cコース 沼巡り

『コース所要時間』 Wはトイレの場所

(往路バス) 定山溪 = 中山峠W = 喜茂別町 = ニセコ町 = 湯本温泉W = 峠 = 大谷地駐車場

※往路の「大谷地駐車場」にトイレがないので、「中山峠」等で済ませてください。

(登山) 大谷地駐車場 → 1:00 → 大沼 → 0:40 → 大谷地駐車場 → 0:30 → 神仙沼 → 0:30 → 神仙沼駐車場

(帰路バス) 神仙沼駐車場W = 峠 = 湯本温泉 = ニセコ町 = 京極吹出し公園 = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

乾燥して笹原になった大谷地は木道が敷かれていて歩きやすい。ここで発見されたという道内5〜6か所にしか生育しない「フサスギナ」を見ることができる。エゾイチゲ、水芭蕉、エゾノリュウキンカ(谷地蓼)、コバイケイソウの群落などを愛でながら大谷地を抜けると緩やかな森林の中の登りになり、やがて開けた岩礫の大沼畔に到着する。湖面に写るイワオヌプリが素晴らしい。大谷地駐車場に戻って道道66号線(パノラマライン)を跨ぎ、所々に敷かれた木道を小さなアップダウンを繰り返しながら神仙沼へ向かう。神仙沼地域はチセヌプリの溶岩台地上に作られた高層湿原(雨や雪だけで涵養される湿原。河川や地下水で涵養されるのは低層湿原)で、ワタスゲとエゾカンゾウが咲き赤エゾ松の間に散在する幾つかの池塘からなる湿原と、水面に咲くミツガシワや沼畔にヒオウギアヤメの咲く周囲500mの神仙沼からなっている。神仙沼入口には「森林環境整備協力金」の投入箱があるので、気持ちのある人は幾ばくかの金額を入れてほしい。



◆Dコース チセヌプリ (1134.2m) 横断

『コース所要時間』 ㊦はトイレの場所

(往路バス) 定山溪＝中山峠㊦＝ニセコ町＝湯本温泉㊦＝峠(チセ・ニト鞍部)

※往路の峠にはトイレがないので、「中山峠」等で済ませてください。

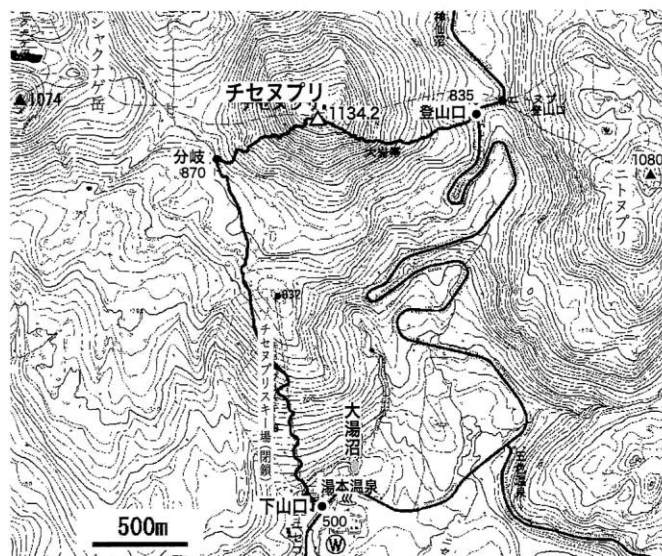
(登山) 峠(チセ・ニト鞍部)→1:30→チセヌプリ→0:30→シャクナゲ岳分岐→1:30→チセヌプリ登山口(湯本温泉)

(帰路バス) チセヌプリ登山口㊦＝ニセコ町＝京極吹出し公園＝喜茂別町＝定山溪

『コース概要』

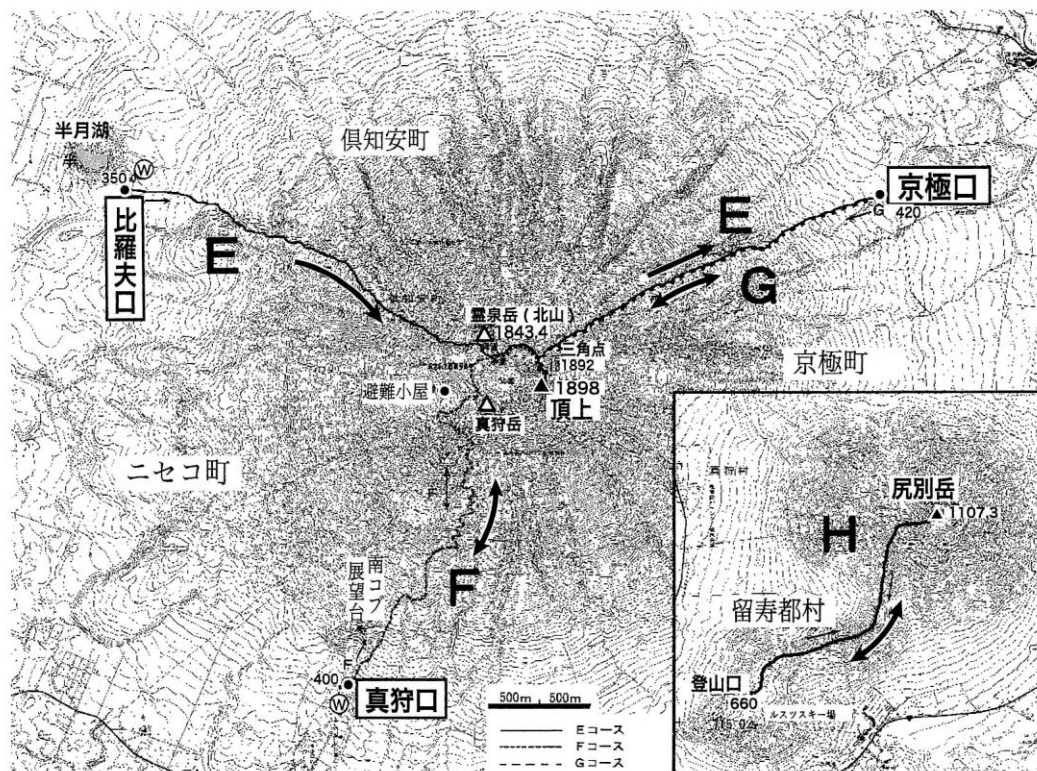
ニセコパノラマラインの登山口から歩き出す。急な斜面300mを一気に直登する登りだ。笹原はすぐ低木の森林帯に入り、大きな岩の道となる。手を使い攀じ登ったり、跨いだりの苦しい登りがしばらく続く。笹原に出ると展望が開け、緑の絨毯の中にうねるパノラマラインの上にニト、イワオ、アンヌプリが聳え、眼下に小湯沼が見える。色とりどりの花も急登の疲れを癒してくれる。ハイ松が濃くなると大きなケルンが立つ広い頂上に着く。頂上が広くハイ松があるので、歩き回りながら四方の素晴らしい展望を楽しむ。

東にはニトヌプリ、イワオヌプリ、アンヌプリ、羊蹄山の四重連が聳え、西にはシャクナゲ岳、目国内岳、雷電山などのニセコ西部の山並。南にはシャチの背ビレのような昆布岳が目を引き。その奥に目を凝らせば噴火湾越しに遠く駒ヶ岳も眺められる。北側は無意根山など札幌の南縁になる山々から積丹半島へ山並が続いている。山頂の広い台地にはハイ松に隠れるように小さな池と小さな湿原がある。チセ沼といわれ、すぐそばにありながらあまり人の立ち入らない池である。下りは低い笹藪と高山植物の中を分岐まで下る。正面にシャクナゲ岳とビーナスの丘そしてその間に小さなシャクナゲ沼を配する雄大な眺めだ。分岐からは緩やかな笹原の道をゆっくりと820m台地まで下り、チセヌプリスキー場ゲレンデ跡(2015年に営業終了)を縫うように下る。下山口の駐車場から舗装道を登ると、湯気の立ち上る大湯沼だ。かつて間欠泉のあった周囲200mの大湯沼には短い周遊路がある。



◎羊蹄山 (最高点 1898m、三角点は 1892.7m)

【留意事項】 羊蹄山EFGコースは登頂最大所要時間を6時間と考えていますが、これより大幅に遅れる山岳会パーティ(個人)には、登頂断念の処置をとる場合がありますのでご了承ください。



㊦はトイレの場所

◆Eコース 比羅夫口～京極口

『コース所要時間』 ㊦はトイレの場所

(往路バス) 定山溪 = 中山峠㊦ = 喜茂別町 = 京極町 = 比羅夫登山口㊦

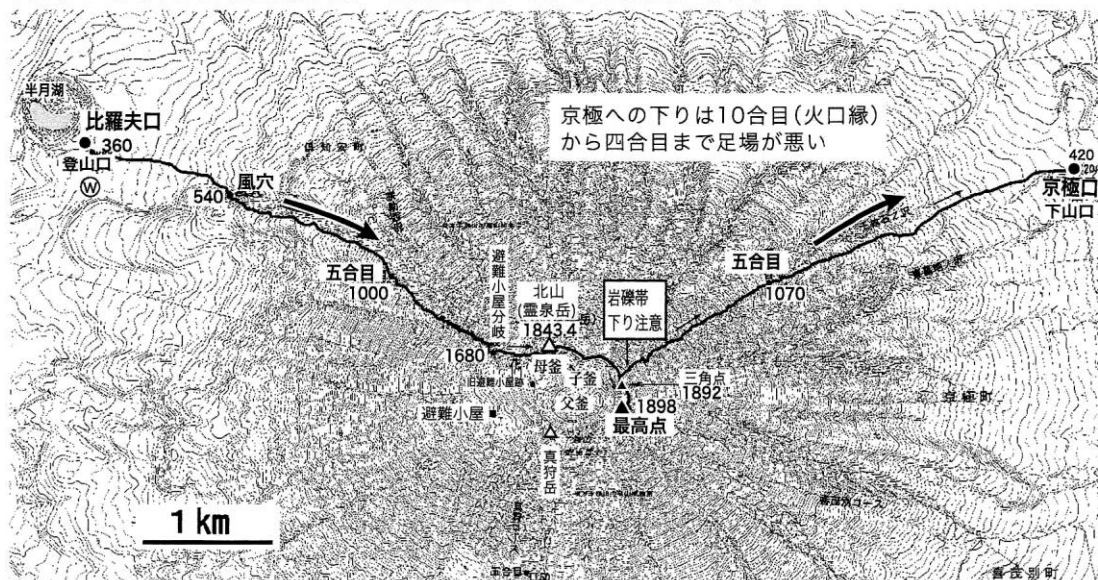
(登山) 登山口 → 2:30 → 五合目 → 2:40 → 九合目避難小屋分岐 → 1:10 → 京極下山口 (三角点) → 0:15 → 頂上 → 0:15 → 京極下山口 → 1:45 → 五合目 → 1:45 → 京極登山口

(帰路バス) 京極登山口㊦ = 京極吹き出し公園㊦ = 喜茂別町 = 定山溪

※京極登山口のトイレは近くにある「札幌山の会」山小屋を開放します。

『コース概要』

爆裂火口に水の溜まった半月湖の先に登山口がある。1合目までは緩やかな登りだがそこから急登が始まる。すぐ羊蹄の溶岩流末端にできた風穴がある(標高550m)。登山口から40分。ダケカンバなどの広葉樹にトマツなどの針葉樹が混じる鬱蒼とした森林の中をただひたすら登る。6合目辺りから傾斜がぐんときつくなる。登山道は深くえぐれほとんど直登に近い。樹間にちらほら姿を見せていたニセコの主峰ニセコアンヌプリが7合目辺りで全貌を現す。ナナカマドが多くなり、時折雪渓が現れる。8合目辺りからシラネアオイなど花が目につくようになり、9合目避難小屋への道を分けてからお花畑になる。



砂礫の道にエゾノツガザクラ、ミヤマオダマキ、イワベンケイ、キバナシャクナゲ、イワブクロ、イソツツジなどが疲れを癒してくれる。火口原の素晴らしいお花畑の中を抜け、砂礫の道を辿って北山に登ると、目の前に深さ200mの大噴火口(父釜)と足元に小さな母釜・子釜が目飛び込んでくる。東に目を転ずると父釜の南東を限る岩稜が豪快な姿を見せる。ここから火口縁を巡って頂上へ。緩やかな砂礫の道がやがて岩石の道になり、京極への下り口付近には一等三角点1892.7mが設置されている。長らくこのすぐ手前にあるピークが頂上とされていたが、近年すこし南のピークの方が高いことがわかり、現在の頂上1898mになった。さすがに独立峰として下界の高度感が素晴らしい。間近に洞爺湖・有珠山・昭和新山、遠く噴火湾越しの駒ヶ岳、そして日高山脈の連なりと、遮るものがない(京極への下山はGコースを参照)

◆Fコース 真狩口往復

『コース所要時間』 ㊦はトイレの場所

(往路バス) 定山溪 = 中山峠㊦ = 喜茂別町 = 真狩羊蹄自然公園駐車場㊦

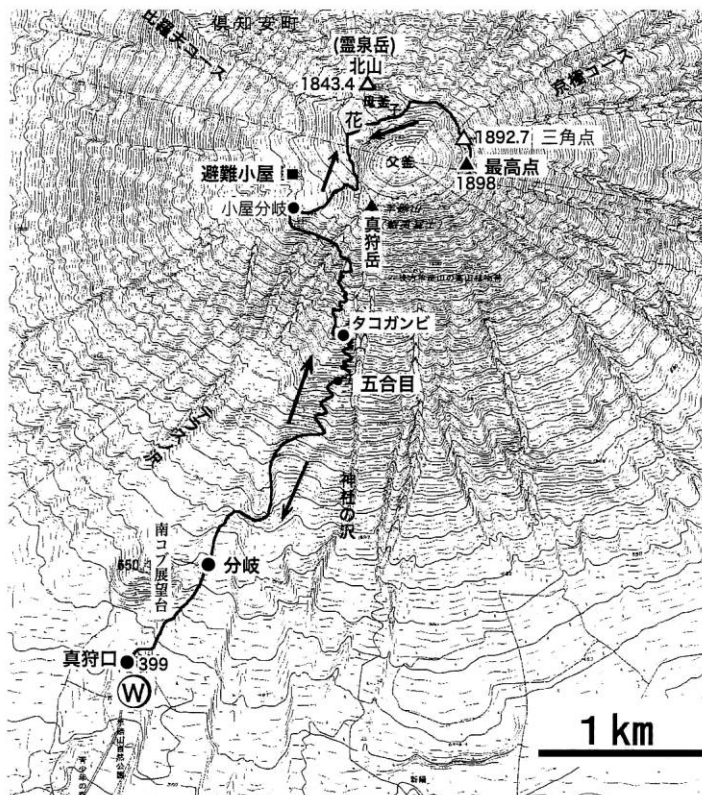
(登山) 駐車場 → 0:05 → 登山口 → 0:30 → 1合半南コブ展望台分岐 → 1:20 → 四合目 → 2:45 → 九合目 (避難小屋分岐) → 0:30 → 火口縁 (真狩下山口) → 1:10 → 頂上 → 0:45 → 真狩下山口 → 0:20 → 九合目 → 2:00 → 四合目 → 0:50 → 展望台分岐 → 0:20 → 登山口 → 0:05 → 駐車場

(帰路バス) 真狩羊蹄自然公園㊦ = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

登山口は広々とした羊蹄自然公園の最上部にある。登山口から右に曲がると20mほどの崖路を登ることになる。ここは雨の日には下りで気をつけたい。そこからだらだら登りがしばらく続くと、やがて南コブ展望台への道を分ける。2合目を過ぎて右にトラバースすると急に傾斜がきつくなり3合目である。この急登を登り、開けた笹藪を右に巻き気味になると大きな岳樺が木陰を作る4合目である。

ここから道は急傾斜にジグザグを刻む。時折眼下に見える真狩村の畑がどんどん低くなっていく。時折段差が大きいえぐれた道が現れる。6合目手前でえぐれて荒々しい神社ノ沢を右に見ると左にトラバース気味になる。6合目を過ぎてしばらくすると岳樺がタコの足のように曲がりくねったタコガンピが現れる。8合目からテラスノ沢の源頭を横切るようになり、やがて急に開けた砂礫地を登るようになる。この登りはしばらくお花畑で展望も開けて気持ちが良い。ウコンウツギから始まり、イワギキョウ、各種のリンドウなど。右にシャチの背ビレのような昆布岳、左手下には洞爺湖が見える。やがてハイ松を潜るようになると避難小屋への道を分ける9合目である。雪渓のある浅い谷を隔てて花に囲まれた小屋が見える。2013年10月に建て直された避難小屋である。回り込むように尾根に出ると、雪渓の残る斜面が伸びあがって羊蹄山の外輪が視界を遮る。そして外輪の南西端、真狩下山口からは一面花のオンパレードが始まる。右手には直径700m 周囲約2km 深さ200mの大噴火口を見ながら、右回りにまず土台だけの旧避難小屋の丘に登り、お花畑の中を下って小丘に登り、母釜子釜の縁を通して砂礫の道を進む。まず目につくのがエゾノツガザクラ、そしてキバナシャクナゲ、各種のリンドウ、イワギキョウ等々。ひと登りすると、剥き出しになった巨岩の間を縫って三角点のある京極口に出る。そのすぐそばにあるピークが長い間頂上とされていたが、今は5分ほど先にある最高点が頂上である(頂上の項はEコース参照)。



◆Gコース 京極口往復

『コース所要時間』 Wはトイレの場所

(往路バス) 定山溪 = 中山峠W = 喜茂別町 = 京極登山口W

(登山) 登山口 → 2:40 → 五合目 → 2:40 → 火口縁 → 0:15 → 頂上 → 0:15 → 火口縁 → 2:00 → 五合目 → 2:00 → 登山口

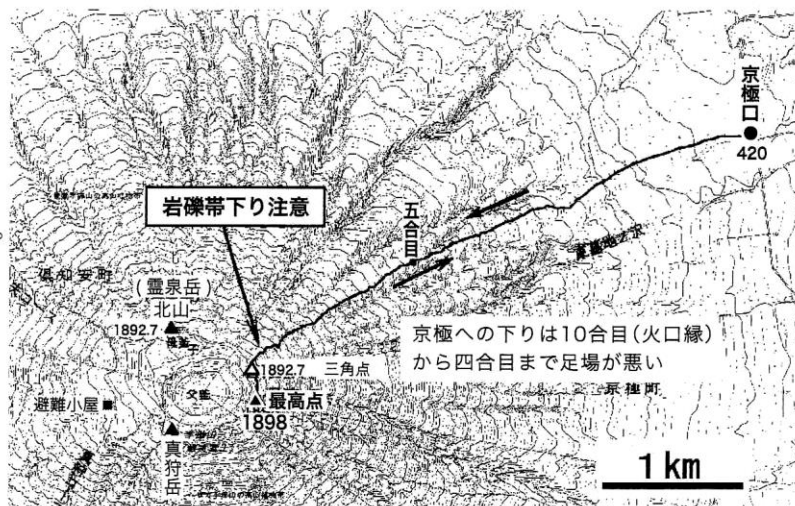
※トイレは登山口近くにある「札幌山の会」山小屋を開放します。

(帰路バス) 登山口W = 京極吹き出し公園W = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

登山口周辺は広々としたジャガイモ畑の中にあり、見上げると羊蹄山が聳えている。ジャガイモの花を愛でながら「登山道」の標識から樹林帯に入る。1合目を過ぎると次第に傾斜が増してくる。林道を2度横切り、3合目辺りから登山道がえぐれて段差の大きな登りが頻繁に現れて登り難い。雨の日の下りはスリッパに気をつけたい。

4合目辺りから傾斜が一段と急になり、鬱蒼とした森林の中を黙々と登る。小さなジグを切るが直線的で苦しい登りが続く。視界もほとんど開けず、樹間から下界が垣間見えるだけだが、合目毎の標識に書かれた励ましの言葉に勇気をもらいながら登ろう。6合目を過ぎると一段と急になるが、周囲の木々が低くなり景色が見えてくる。羊蹄山と見間違える尻別岳は既に低く、右脇に洞爺湖が見えてくる。相変わらずえぐれた道には大きな岩や太い木の根が出ていて歩き難い。7合目を過ぎると視界が大きく開けてくる。京極の町が眼下に見え、札幌の南を区切る山々が連なり、その余市岳と無意根山の間に遠く定山溪天狗岳の奇峰が見える。登山道にはゴゼンタチバナ、シラネアオイ、ヤマハハコなどの花が咲き、疲れを癒してくれる。8合目から巨岩が現れはじめ、しばらくすると砂礫斜面に出る。所々ロープが付けれ



れているが歩き難い。一旦低木帯に入るが、ここから稜線にかけて砂礫で滑りやすく傾斜も手を使いたくなるほど急なので、下りは細心の注意を要する所だ。

稜線に出たところは大噴火口の縁で一等三角点がある。すぐ右手に最近まで頂上とされていた小ピークがある。最高点1898mは左に5分ほど巨岩の間を縫って行く。

◎尻別岳 (1107.3m)

◆Hコース 山頂往復

『コース所要時間』 ㊦はトイレの場所

※トイレはありませんのでバス移動途中の「中山峠」で、帰路は京極噴出し公園で済ませてください。

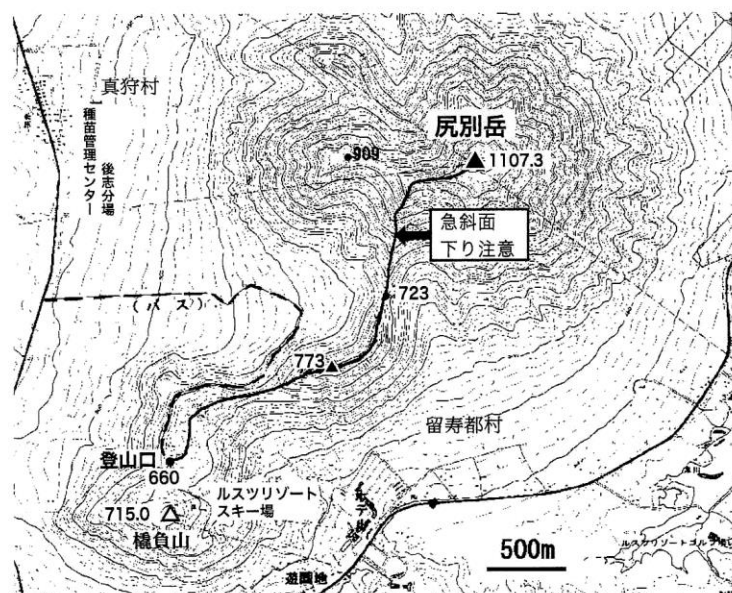
(往路バス移動) 定山溪 = 中山峠㊦ = 喜茂別町 = 留寿都町 = 馬鈴薯原原種農場 = 尻別岳登山口

(登山) 登山口 → 0:50 → 鞍部 (C723) → 1:20 → 頂上 → 1:00 → 鞍部 → 0:50 → 登山口

(帰路バス移動) 登山口 = 京極噴出し公園㊦ = 喜茂別町 = 定山溪

『コース概要』

登山口は尻別岳の南にある橈負山の中腹にある。バスは真狩種苗管理センターの薬液槽にタイヤを浸して入り尻別岳の中腹を登って登山口まで行く。薬液槽にタイヤを浸すのは、このセンターが馬鈴薯の健全無病な原原種の生産・配布を目的としているので、雑菌の持ち込みを防ぐためである。登山口からダケカンバの疎林の中の笹を刈り分けた道を進むと、右手にルスツスキー場のリフトの終点がある。そこから道は鞍部を経て森林の中を773mのピークを目指して登る。ピークは平坦で右側が急な草斜面で展望が素晴らしい。眼下はルスツリゾートの遊園地でジェットコースターなどの歓声が間近に聞こえる。草斜面にはエゾカンゾウ、フウロ、タニウツギなどの花が咲いて彩を添えている。ピークの端から一旦急斜面を下ると、見上げるような登りの急斜面に取り付く。ほとんどジグザクのない直線的な高度差約300mの急登である。所々ロープが取り付けられているが砂礫の部分もあり足元に気を付けたい。下る時は一層の注意力が必要である。右側は相変わらずの草斜面で、点在する花々が励ましてくれる。標高1,030mの肩からは傾斜は緩くなり、斜面をトラバース気味にひと登りすると平坦な頂上である。笹原を刈り分けた裸地に三角点がある。独立峰として展望は申し分ない。とりわけ目の前に大きく聳える羊蹄山は圧巻である。目を反対の東に転ずると、貫気別岳の山腹にルスツスキー場のコースが開かれている。この尻別岳と貫気別岳を舞台に毎年、北海道山岳連盟が主管するトレイルランニング大会(4コースで最長約80km)が開かれている。北側の喜茂別から登ってくる登山道は、そのために廃道化していた旧登山道を復元したものである。



送付先 FAX 011-731-1456

申込日 月 日

第56回 全日本登山大会参加申込書

申込締切日 5月22日(月)

新規	変更	追加	取消
----	----	----	----

記載責任者名 (参加代表)	所属山岳会名称
住所 (書類送付先)	TEL:
	FAX:
	携帯:

No.	氏名	住所	性別	年齢	生年月日	希望コース ※1	交通手段 ※2	OP観光	パンフレット 送付希望 ※3
例	ホツカイ 北海太郎	〒060-0909 北海道札幌市東区北9条東2丁目	男	29	S63年4月4日	第一希望 第二希望 第三希望	路線バス (タクシー) 車		希望する 希望しない
1	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望	路線バス タクシー 車		希望する 希望しない
2	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望	路線バス タクシー 車		希望する 希望しない
3	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望	路線バス タクシー 車		希望する 希望しない
4	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望	路線バス タクシー 車		希望する 希望しない

※1 必ず第三希望まで記入下さい ※2 定山深までの利用交通手段に○印をお付け下さい
 ※3 りんゆう観光は北海道発の山旅を提供している旅行会社です。パンフレット送付を希望する方はお知らせ下さい。

※変更・取り消しをご希望の場合も本用紙にその内容をご記入の上、郵送又はFAXにてご連絡下さい
 ※お電話でのお申込み・取り消しは出来かねますので、ご了承下さい。
 ※ご記入いただいた個人情報は大大会参加手続き及びご旅行の手配業務のためのみに使用いたします。
 尚、パンフレットを希望されたお客様にはその発送の為に利用させて頂きます。

【お申込み・お問い合わせ先】

株式会社 りんゆう観光

北海道札幌市東区北9条東2丁目 〒060-0909

TEL: 011-711-7106 FAX: 011-731-1456

担当 白石：橋本

第56回 全日本登山大会 参加費等振込み明細書

俵りんゆう観光 行き

振込明細欄			
項目	単価	人員	合計
参加費	33,000		
振込金額			

領収書発行依頼書	
宛先	
金額	
但し書	
送付先	〒
宛先	
金額	
但し書	
送付先	〒

振込控え添付欄